

MZ Platform Version 2.7 インストールガイド

独立行政法人 産業技術総合研究所

MZ プラットフォーム研究会

2011.6.10

目次

1. MZ Platformのインストールにあたって	2
2. 動作環境.....	4
3. ソフトウェアのインストール.....	5
4. Java環境の変更.....	10
5. 動作環境設定.....	11
6. MZ Platformのライセンス	15
6.1. ライセンス申請手順.....	15
6.2. 旧バージョンのライセンス取り込み	20
6.3. ライセンス管理についての注意点	22
6.4. ライセンス関連のトラブル対応について.....	22
7. MZ Platformの実行	24
8. MZ Checkerについて.....	25

MZ Platform に関してご不明な点、ご質問等ございましたら、氏名、所属機関名称、住所、連絡先、E-mailアドレスを明記の上、pf-support@m.aist.go.jpまでご連絡ください。

1. MZ Platformのインストールにあたって

MZ Platformを動作させるためにはJava実行環境(JRE)をインストールする必要があります。「MZ Platform Version 2.7 インストールCD」からすべてをインストールした場合、MZ Platformだけが使用するJava環境としてJava SE Runtime Environment 6 Update 25(以下JRE6u25)およびJava3D 1.3.2 がインストールされます。初めてご使用になる場合を含めて特に問題がない限り、すべてをインストールされることを推奨しますが、既にインストール済みのJava環境をご使用になりたい場合や、新たなバージョンのJava環境が公開された場合等には、それらを使用することも可能です。それぞれの場合についてのインストールの手順を以下にまとめます。

(1) 初めて MZ Platform をインストールする場合

初めて MZ Platform をご使用になる場合には Java 実行環境を含めてすべてをインストールすることをお勧めします。次の順序で本インストールガイドをご覧ください。インストールを行ってください。

[2. 動作環境]→[3. ソフトウェアのインストール(すべて)]→[6. MZ Platformのライセンス]

※別途インストールした Java 環境を使用される場合には、インストーラ画面に従って MZ Platform のみをインストールした後に、環境変数 JAVA_HOME を手作業で設定する必要があります。次の順序で本インストールガイドをご覧ください。インストールを行ってください。

[2. 動作環境]→[3. ソフトウェアのインストール(MZ Platformのみ)]→[5. 動作環境設定]→[6. MZ Platformのライセンス]

(2) 既に旧バージョンの MZ Platform をご利用の場合

バージョン 2.6 以前の MZ Platform をご利用の場合には、Java 環境が更新されておりますので、特に問題がない限り Java 実行環境を含むすべてをインストールすることをお勧めします。

バージョン 2.2 から 2.6 までの MZ Platform をご利用の場合には、既存の Java 環境に新しい Java 環境が上書きされます。独自に作成したコンポーネントをご使用の場合には、コンポーネントのファイルをコピーする必要があります¹(外部ライブラリ、コンポーネントファイルについては MZ Platform インストール完了後の設定も可能です)。次の順序で本インストールガイドをご覧ください。インストールを行ってください。

[2. 動作環境]→[3. ソフトウェアのインストール(すべて)]→[6. MZ Platformのライセンス]→[独自コンポーネントの取り込み (独自コンポーネントがある場合)³]

バージョン 2.1 以前の MZ Platform をご利用の場合で、これまでご使用の Java 環境に外部ライブラリ(データベースへの接続のための JDBC ドライバ等)を導入している場合には、新しい Java 環境にそれらをコピーする必要があります²。また、独自に作成したコンポーネントをご使用の場合には、コンポーネントのファイルを

¹ 独自に作成されたコンポーネントの移行については、コピーが必要なファイル(jar ファイル、dll ファイル等)、コピー先、各種設定等についてコンポーネント開発者または開発元にお問い合わせください。コンポーネントの登録等については「新規コンポーネント作成手順」をご覧ください。

² JRE 用ライブラリの移行については、そのライブラリを用いる各種マニュアルをご覧ください。例えば、MySQL の JDBC ドライバの移行については「工程管理システム導入マニュアル.pdf」等に記述されているドライバファイルの配置場所を参考にしてください。

コピーする必要があります³(外部ライブラリ、コンポーネントファイルについてはMZ Platformインストール完了後の設定も可能です)。次の順序で本インストールガイドをご覧になり、インストールを行ってください。

[2. 動作環境]→[3. ソフトウェアのインストール(すべて)]→[6. MZ Platformのライセンス]→[JRE用ライブラリのコピー (外部ライブラリがある場合)²]→[独自コンポーネントの取り込み (独自コンポーネントがある場合)³]

※旧バージョンのインストール CD でインストールした Java 環境や別途インストールした Java 環境をそのまま使用される場合には、それぞれ次の手順で設定をお願い致します。

(a) バージョン 2.2 から 2.6 までのインストール CD から導入した Java 環境を使用される場合

Java環境は異なりますが設定に変更はございませんので、インストーラ画面に従ってMZ Platformのみをインストールして下さい。また、独自に作成したコンポーネントをご使用の場合には、新しいMZ Platformにそれらをコピーする必要があります³。次の順序で本インストールガイドをご覧になり、インストールを行ってください。

[2. 動作環境]→[3. ソフトウェアのインストール(MZ Platformのみ)]→[6. MZ Platformのライセンス]→[独自コンポーネントの取り込み (独自コンポーネントがある場合)³]

(b) バージョン 1.6 から 2.1 のインストール CD から導入した Java 環境を使用される場合

インストーラ画面に従ってMZ Platformのみをインストールした後にJava環境の変更を行う必要があります。また、独自に作成したコンポーネントをご使用の場合には、新しいMZ Platformにそれらをコピーする必要があります³。次の順序で本インストールガイドをご覧になり、インストールを行ってください。

[2. 動作環境]→[3. ソフトウェアのインストール(MZ Platformのみ)]→[4. Java環境の変更]→[6. MZ Platformのライセンス]→[独自コンポーネントの取り込み (独自コンポーネントがある場合)³]

(c) バージョン 1.5 以前のインストール CD から導入した Java 環境、別途インストールした Java 環境を使用される場合

インストーラ画面に従って MZ Platform のみをインストールしてください。すでに環境変数 JAVA_HOME を設定済みのはずですが、念のためご確認ください。また、独自にコンポーネントを作成し使用している場合には、コンポーネントのファイルをコピーする必要があります。次の順序で本インストールガイドをご覧になり、インストールを行ってください。

[2. 動作環境]→[3. ソフトウェアのインストール(MZ Platformのみ)]→[5. 動作環境設定]→[6. MZ Platformのライセンス]→[独自コンポーネントの取り込み (独自コンポーネントがある場合)³]

³ 独自に作成されたコンポーネントの移行については、コピーが必要なファイル(jar ファイル、dll ファイル等)、コピー先、各種設定等についてコンポーネント開発者または開発元にお問い合わせください。コンポーネントの登録等については「新規コンポーネント作成手順」をご覧ください。

2. 動作環境

■推奨環境

MZ Platform は以下の環境で動作します。

OS	Windows 2000/XP/Vista/7 (Windows 2000 Professional SP4 以上、Windows XP Professional SP2 以上推奨)
CPU	Celeron 1.4GHz 以上 (Pentium IV 1.8GHZ 以上推奨)
メモリ	384MB 以上 (512MB 以上推奨)
HDD	最大で約 355MB 以上の空き容量 (JRE 用 95MB、MZ Platform 用 260MB)
画面解像度	1024×768 以上推奨
グラフィックボード	OpenGL 対応ボード ※3D 表示における注意点 ハードウェアとの相性により、うまく起動できない場合や、画面が乱れる場合があります。この場合、グラフィックハードウェアのハードウェアアクセラレータのレベルを変更することで解決する場合があります。 それでも解決されない場合には、ハードウェア交換をご検討ください。
通信環境	ネットワークボード
周辺機器	CD-ROM ドライブ(インストール用)

■前提ソフトウェア

動作の前提となるソフトウェアは以下です。MZ PlatformインストールCDからはJava SE Runtime Environment 6 Update 25(以下では、JRE6u25 と記述)とJava3D 1.3.2 が導入可能です。すでに導入されている場合には新規に導入は不要です。(これらがPCに導入されているかどうかの確認方法につきましては、本誌 5 ページ「■手順 1:環境確認」に記載しております。)

Java 実行環境	J2RE 1.4.2_03(または J2SDK1.4.2_03)以降のバージョン
Java3D	Java3D 1.2.1_04 または 1.3.2 (JRE1.5.0 以降では 1.3.2 を推奨)

3. ソフトウェアのインストール

ソフトウェアのインストール手順を以下に示します。

■手順 1: 環境確認

導入作業を開始する前に、導入環境のご確認を行ってください。②、③は**本インストーラより Java 環境をインストールしない場合**に確認が必要です。

- ①導入する PC 環境が本誌1ページ記載の推奨スペックを満たすこと
- ②Java 実行環境(J2RE1.4.2_03 以降のバージョン)が導入されているかどうか
- ③Java3D(Java3D1.2.1_04 または 1.3.2)が導入されているかどうか

②、③は以下の手順にてご確認いただけます。

・別途インストールした場合、バージョン 1.5 以前のインストール CD からインストールした場合

- 1)「スタート」-「設定」-「コントロールパネル」を開く。
- 2)ご使用の OS が、Windows 2000 の場合は、「アプリケーションの追加と削除」を開く。
ご使用の OS が、Windows XP の場合は、「プログラムの追加と削除」を開く。
ご使用の OS が、Windows Vista または Windows 7 の場合は、「プログラム」-「プログラムのアンインストール」を開く。
- 3)「現在インストールされているプログラム」の一覧が表示されますので、画面をスクロールして探してみ
て、「Java 2 Runtime Environment, SE (バージョン番号)」及び「Java 3D (バージョン番号) (OpenGL)
Runtime」が表示されていれば導入されています。

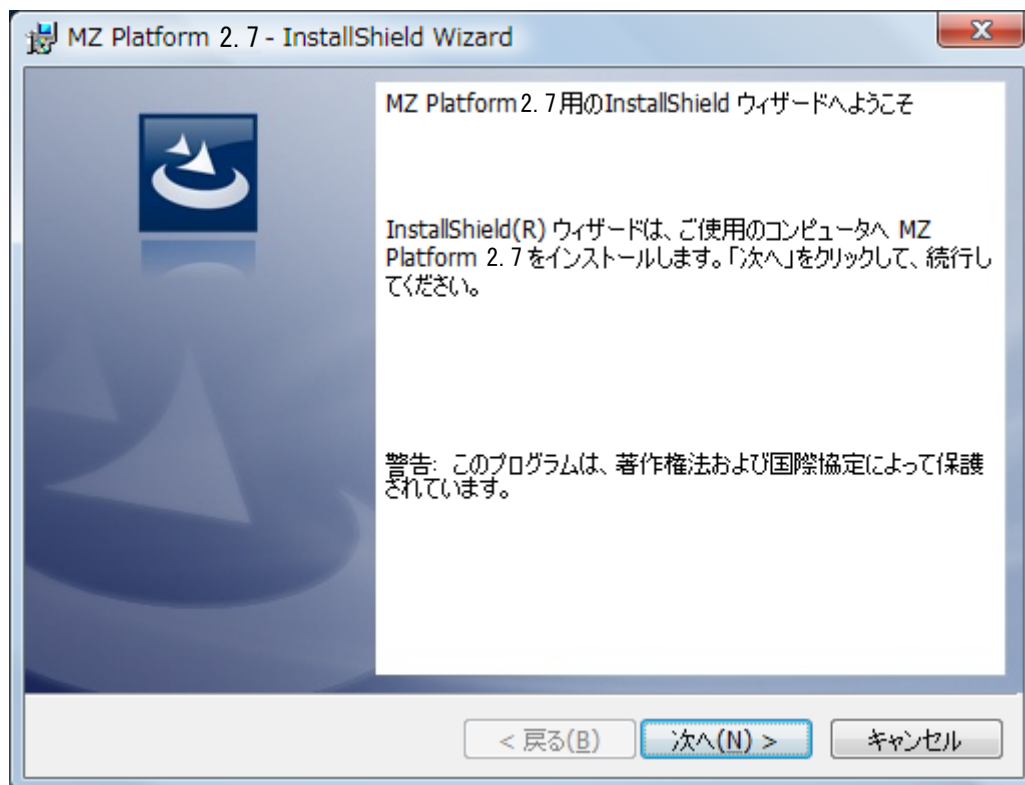
・バージョン 1.6 から 2.6 までのインストール CD からインストールした場合

プラットフォームインストールフォルダ(通常 C:\MZPlatform)に Java フォルダがあり、その中に
j2re1.4.2_03、jre1.6.0_05、または、jre6 フォルダがあれば導入されています。

Java の導入につきましては、後ほど本誌 [2-3:セットアップタイプの選択] の箇所にてお選びいただけ
ますので、こちらではご確認だけで結構です。

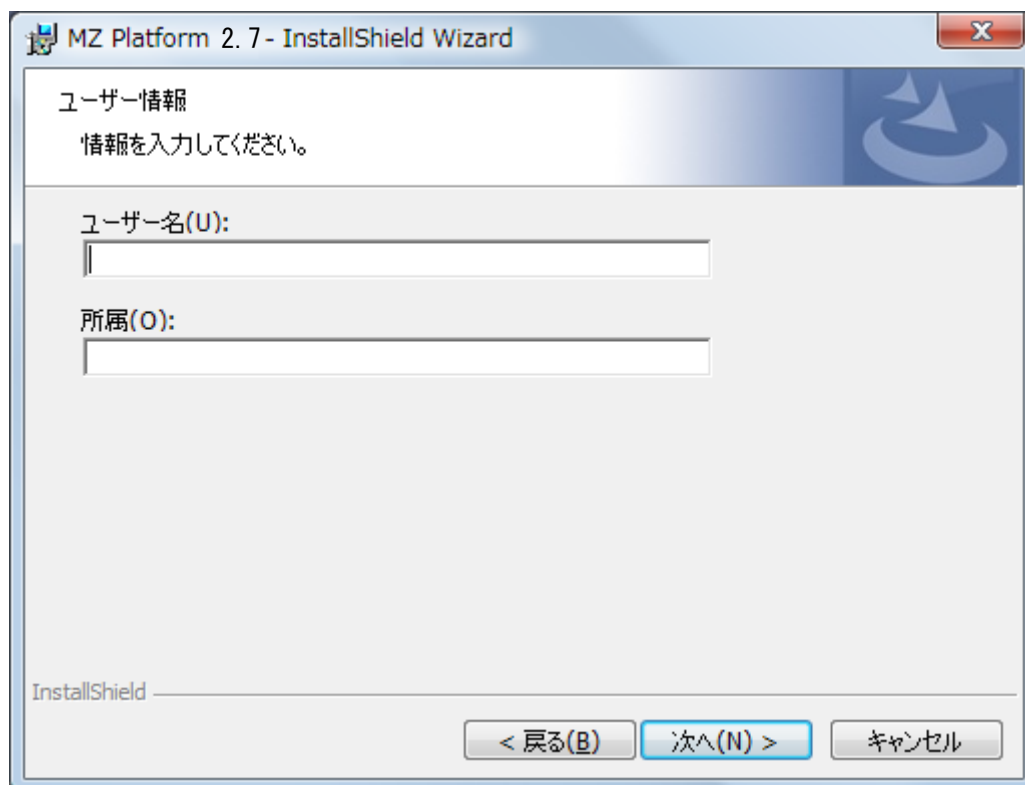
■手順2:インストールの実行

CD-R 内に含まれているインストーラ(setup.exe)をダブルクリックし、インストーラを起動します。以降は、インストーラの画面に従って作業を進めます。



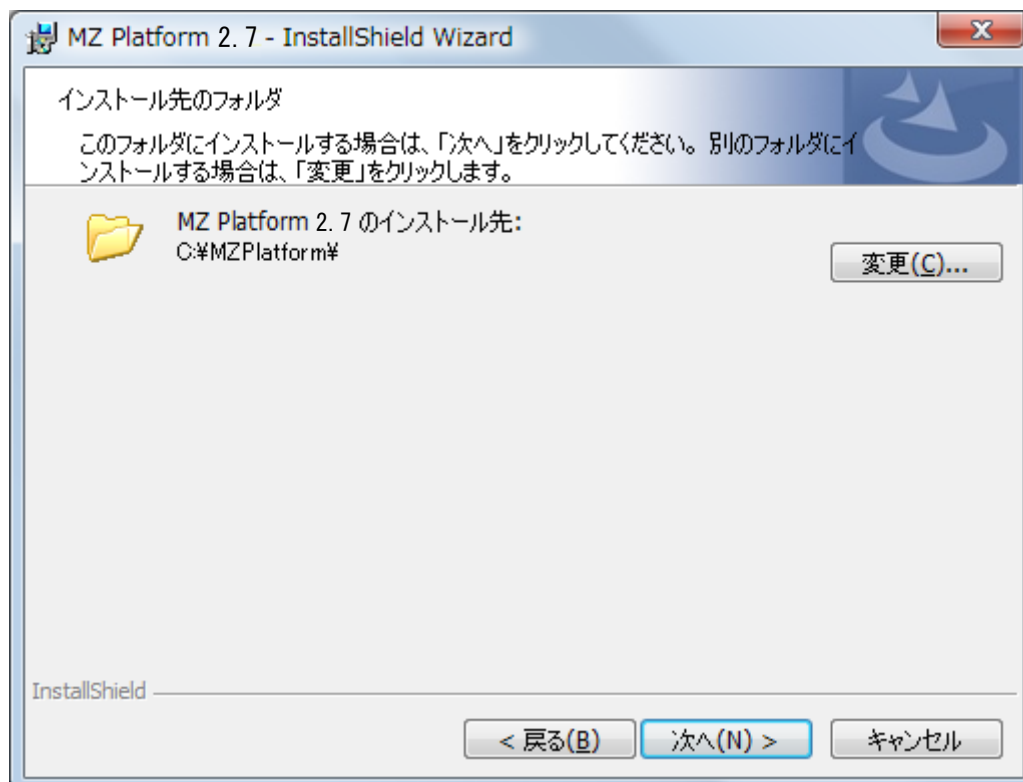
[2-1:ユーザ情報の入力]

ユーザ名、所属を入力し、次へ進みます。



[2-2:インストール先フォルダの入力]

MZ Platform のインストール先フォルダを指定します。ディスクの空き容量などに問題がなければデフォルトのまま構いません。変更したい場合は、右上の[変更(C)...]ボタンを押して入力してください。



[2-3:セットアップタイプの選択]

インストールする PC の環境にあわせて、インストールのタイプを選択します。以下の説明を参考に、セットアップタイプを選択してください。



◇すべて

Java 実行環境(Java3D を含む)、MZ Platform のすべてのソフトウェアが導入されます。Java 実行環境は MZ Platform のみが使用する環境として MZ Platform のインストールフォルダ内にインストールされます。初めて MZ Platform をご使用になる場合には、このタイプをお勧めします。

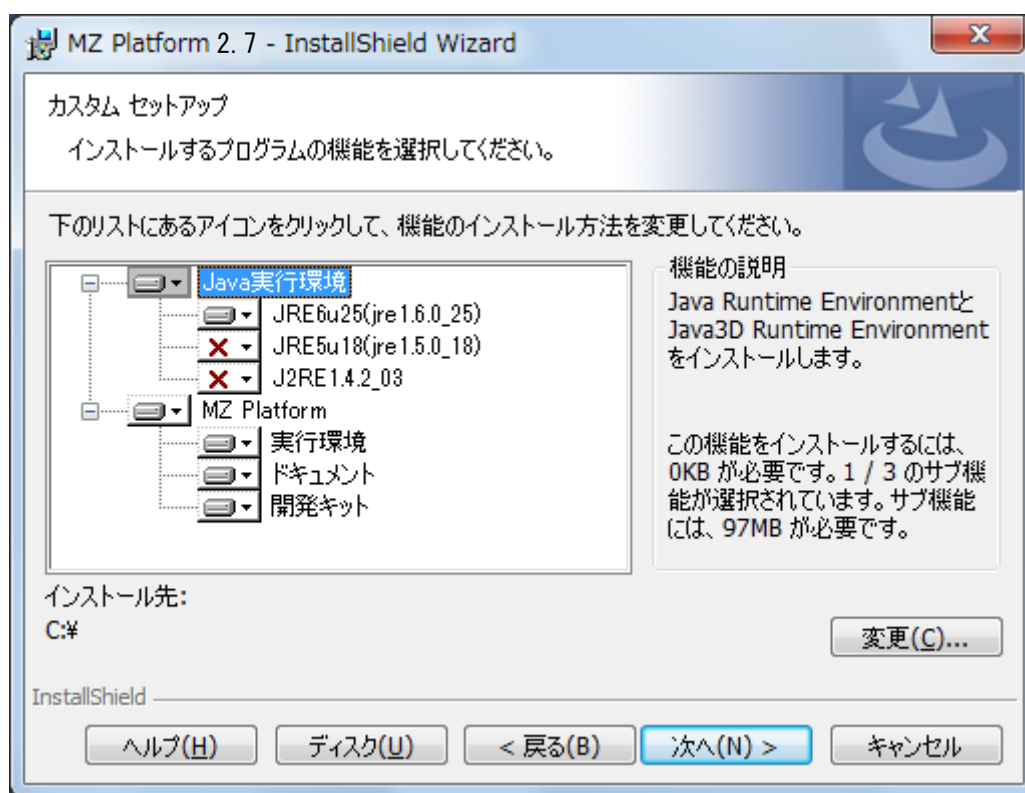
◇MZ Platform のみ

MZ Platform のすべてのソフトウェアが導入されます。Java 実行環境は導入されません。既に導入済みの Java 実行環境をご使用になりたい場合、このタイプを選択します。

◇カスタム

導入するソフトウェアを個別に選択し、必要なものだけを導入します。導入 PC のソフトウェア環境やディスクの空き容量を考慮し、必要なものを選択してください。

[2-4:インストール対象の選択] ※2-3 にて「カスタム」セットアップを選択した場合のみ
導入 PC のソフトウェア環境やディスクの空き容量を考慮し、必要なもののみを選択してください。



①Java 実行環境（約 97MB）

Java 実行環境と Java3D をインストールします。インストール対象外にすることが可能です。デフォルトでは、JRE6u25(Java3D1.3.2 を含む)がインストールされます。必要に応じて他の Java 実行環境をインストールすることも可能です。この Java 実行環境は MZ Platform のみが使用する環境として MZ Platform のインストールフォルダ内にインストールされます。

②MZ Platform—実行環境（約 126MB）

MZ Platform の実行環境をインストールします。これは必須ですので対象外にはできません。

③MZ Platform—ドキュメント（約 165MB）

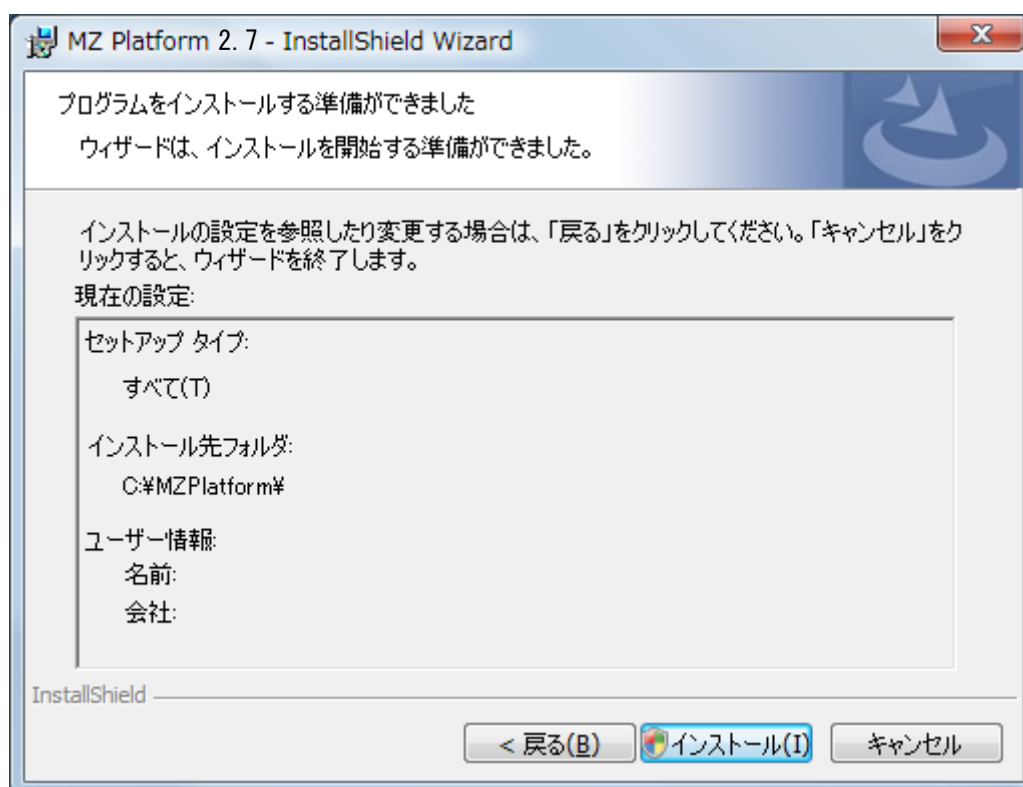
MZ Platform のドキュメントをインストールします。インストール対象外にすることが可能です。

④MZ Platform—開発キット（約 5.5MB）

MZ Platform のコンポーネント開発キットをインストールします。Java プログラミングにて新たにコンポーネントを作成するための開発環境です。インストール対象外にすることが可能です。

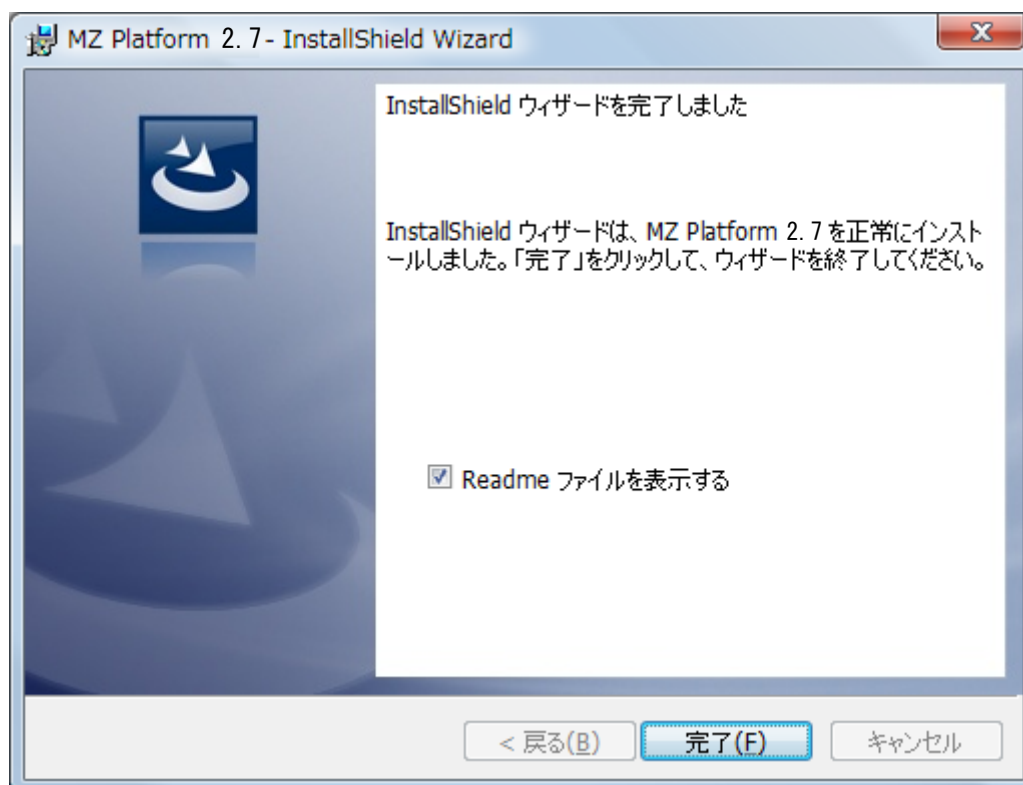
[2-5:インストール実行]

これまでに入力した情報が表示されますので、確認した上で次に進むとインストールが開始されます。



[2-6:インストール完了]

下記のように完了メッセージが表示されるので、「完了」ボタンをクリックして、ソフトウェアのインストールは終了です。



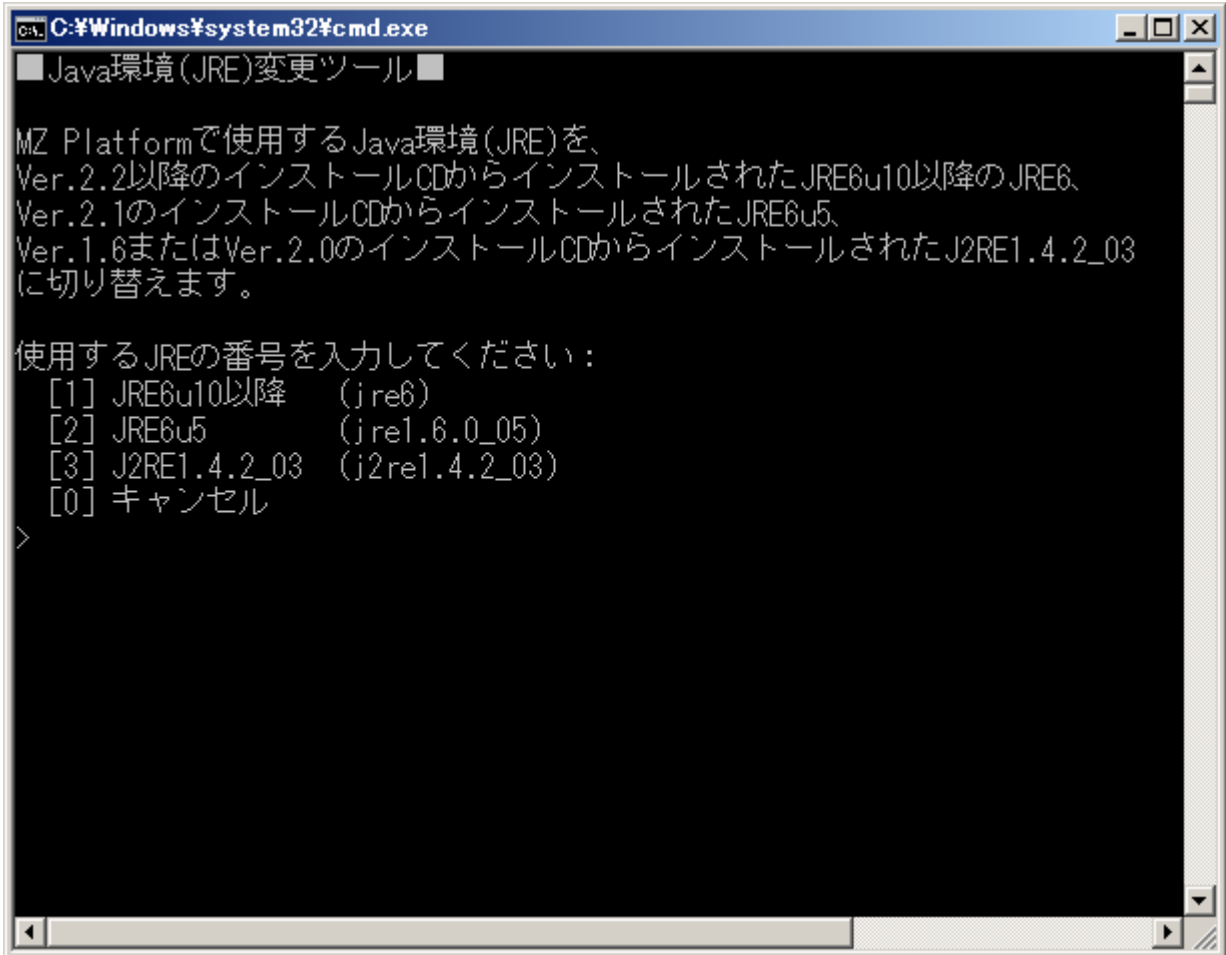
4. Java環境の変更

バージョン 1.6 から 2.1 のインストール CD からインストールした Java 実行環境(JRE)をそのままご使用になる場合のみ、以下手順で Java 環境の変更を行なってください。

スタートメニューから“JRE 変更ツール”を起動してください。

[スタートメニュー]—[プログラム] または [すべてのプログラム]—[MZ Platform 2.7]—[JRE変更ツール]

以下のコンソール画面が表示されます。



```
C:\Windows\system32\cmd.exe
Java環境(JRE)変更ツール

MZ Platformで使用するJava環境(JRE)を、
Ver.2.2以降のインストールCDからインストールされたJRE6u10以降のJRE6、
Ver.2.1のインストールCDからインストールされたJRE6u5、
Ver.1.6またはVer.2.0のインストールCDからインストールされたJ2RE1.4.2_03
に切り替えます。

使用するJREの番号を入力してください：
[1] JRE6u10以降 (jre6)
[2] JRE6u5 (jre1.6.0_05)
[3] J2RE1.4.2_03 (j2re1.4.2_03)
[0] キャンセル
>
```

バージョン 2.1 でインストールした JRE6u5(jre1.6.0_05)を使用される場合には”2”を、バージョン 2.0 または 1.6 でインストールした J2RE1.4.2_03(j2re1.4.2_03)を使用される場合には”3”を入力し[Enter]キーを押します。また、元に戻したい場合には”1”を入力し[Enter]キーを押します。必要な exe ファイルがコピーされて、Java 環境変更の作業が終了します。

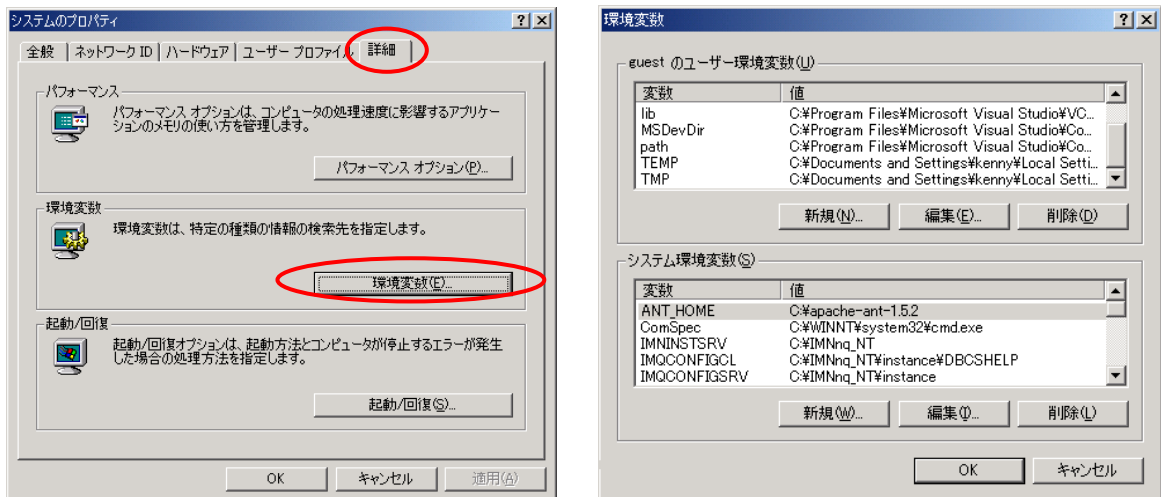
5. 動作環境設定

別途インストールした Java 実行環境をご使用になる場合(バージョン 1.6 以降のインストール CD で Java 環境をインストールした場合を除く)のみ、環境変数の設定が必要です。MZ Platform は実行時に Java を使用します。Java のインストールフォルダを取得するために環境変数 JAVA_HOME を手作業で設定する必要があります。

■ Windows2000 の場合

① システムプロパティの表示

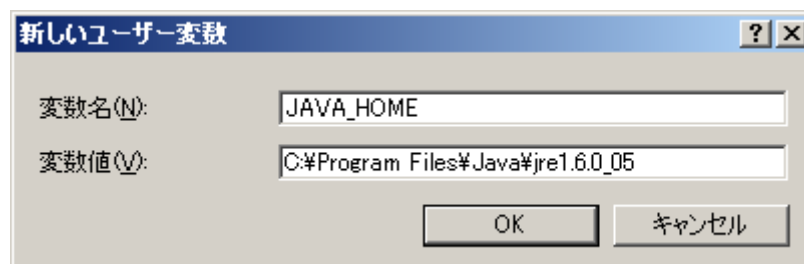
[コントロールパネル]→[システム]でプロパティウィンドウが表示されますので、[システムのプロパティ]の[詳細]タブを選択し、中段の[環境変数(E)...]ボタンを押して設定画面を表示します。



② 環境変数設定

ユーザ環境変数はそのユーザでログオンした場合に有効で、システム環境変数はユーザに関わらず、システム全体に適用されます。JAVA_HOME は利用形式にあわせてどちらかに設定してください。そのユーザしか使用しないのであれば、ユーザ環境変数で構いません。

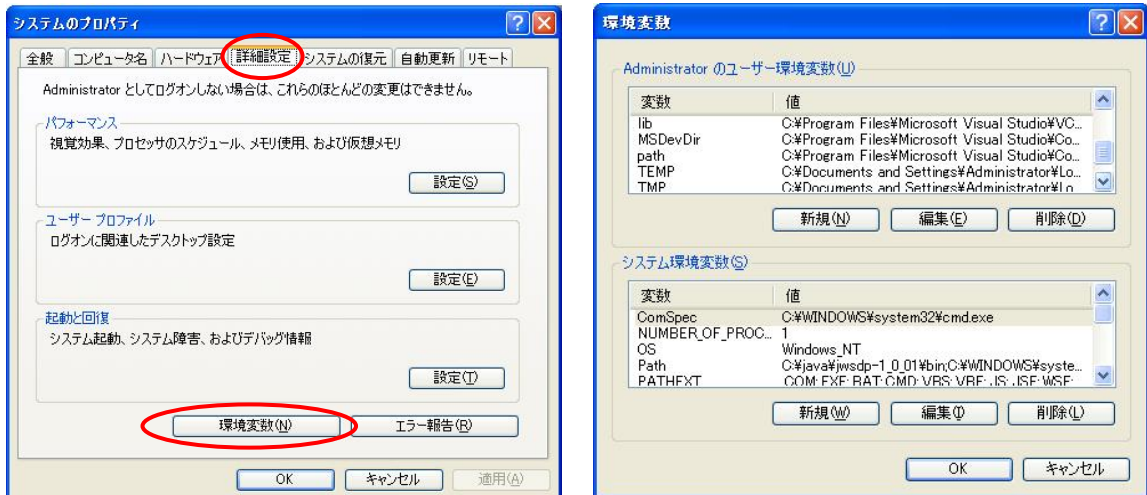
[新規(W)...]を選択し、環境変数 JAVA_HOME を追加してください。設定する値はご使用になる JRE (または JDK)が導入されているフォルダです。例えば、JRE6u5(JRE1.6.0_05)を標準でインストールした場合には、「C:\Program Files\Java\jre1.6.0_05」が設定値となります。変数名及び変数値をキーボード入力後、「OK」ボタンをクリックして環境変数の設定が完了します。次項へお進みください。



■ WindowsXP の場合

① システムプロパティの表示

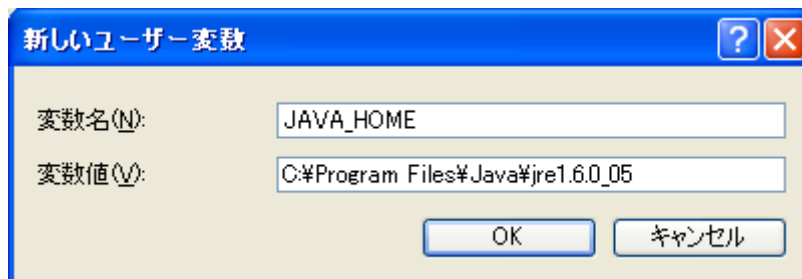
[コントロールパネル]ー[パフォーマンスとメンテナンス]ー[システム](カテゴリ表示の場合) あるいは [コントロールパネル]ー[システム](クラシック表示の場合)でプロパティウィンドウが表示されます。[システムのプロパティ]の[詳細設定]タブを選択し、[環境変数(N)...]ボタンを押して設定画面を表示します。



② 環境変数設定

ユーザ環境変数はそのユーザでログオンした場合に有効で、システム環境変数はユーザに関わらず、システム全体に適用されます。JAVA_HOME は利用形式にあわせてどちらかに設定してください。そのユーザしか使用しないのであれば、ユーザ環境変数で構いません。

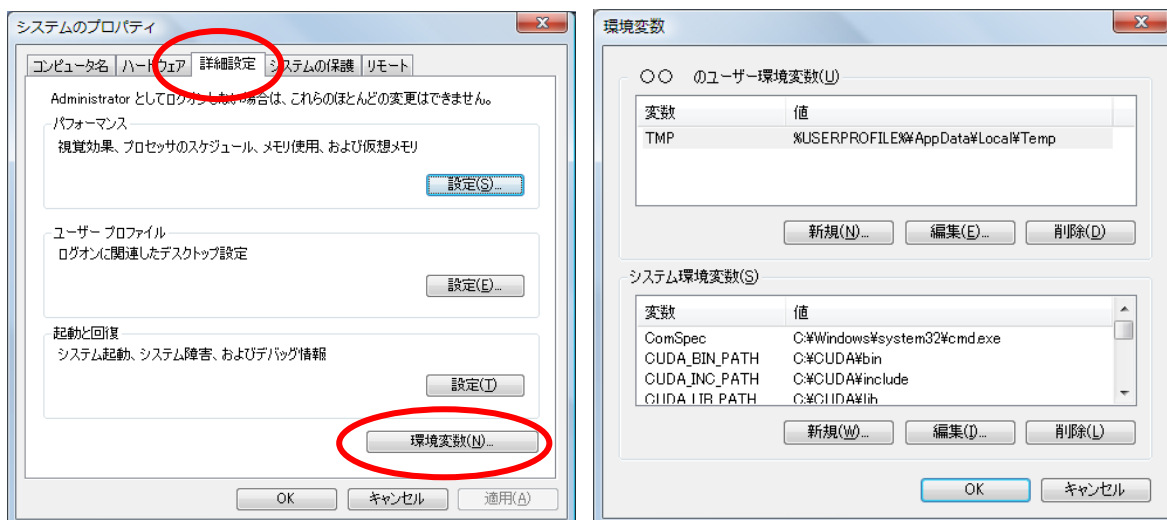
[新規(W)]を選択し、環境変数 JAVA_HOME を追加してください。設定する値はご使用になる JRE (または JDK)が導入されているフォルダです。例えば、JRE6u5(JRE1.6.0_05)を標準でインストールした場合には、“C:\Program Files\Java\jre1.6.0_05”が設定値となります。変数名及び変数値をキーボード入力後、「OK」ボタンをクリックして環境変数の設定が完了します。次項へお進みください。



■ Windows Vista の場合

① システムのプロパティの表示

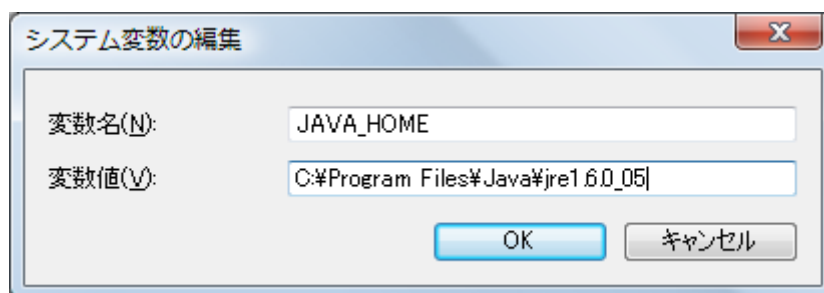
[コントロールパネル]—[システムとメンテナンス]—[システム] を表示します。左側タスクより[システムの詳細設定]を選択し、確認画面が表示されるので[続行]を選択します。[システムのプロパティ]ウィンドウが表示されますので、[詳細設定]タブを選択し、[環境変数(N)...]ボタンを押して設定画面を表示します。



② 環境変数設定

ユーザ環境変数はそのユーザでログオンした場合に有効で、システム環境変数はユーザに関わらず、システム全体に適用されます。JAVA_HOME は利用形式にあわせてどちらかに設定してください。そのユーザしか使用しないのであれば、ユーザ環境変数で構いません。

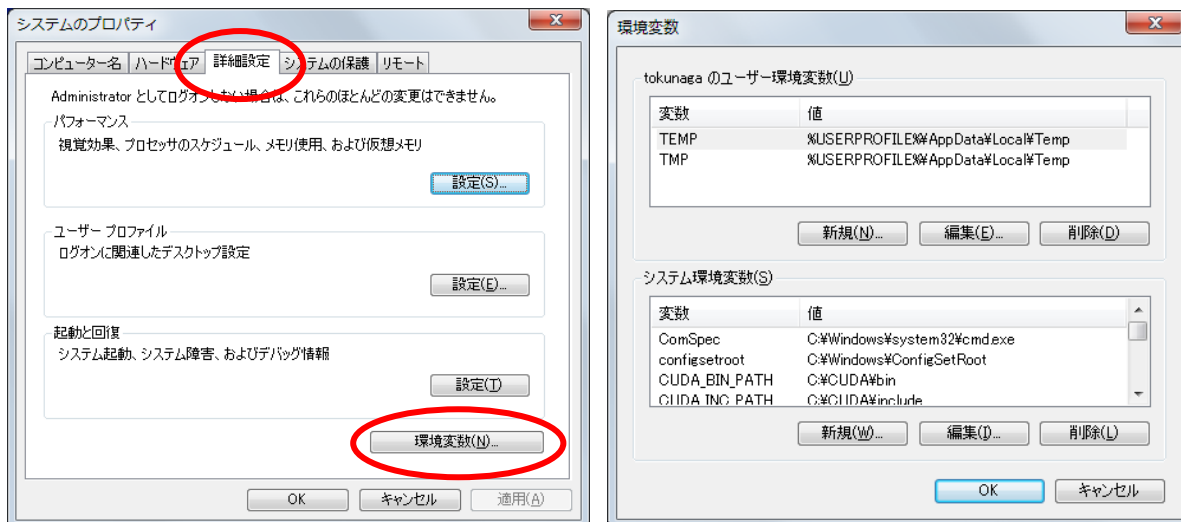
[新規(W)]を選択し、環境変数 JAVA_HOME を追加してください。設定する値はご使用になる JRE (または JDK)が導入されているフォルダです。例えば、JRE6u5(JRE1.6.0_05)を標準でインストールした場合には、“C:\Program Files\Java\jre1.6.0_05”が設定値となります。変数名及び変数値をキーボード入力後、「OK」ボタンをクリックして環境変数の設定が完了します。次項へお進みください。



■ Windows 7 の場合

① システムのプロパティの表示

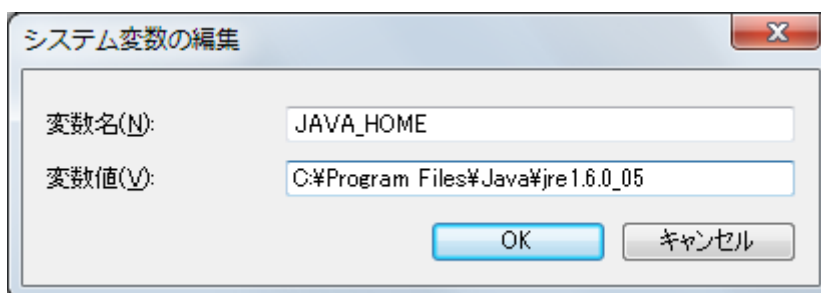
[コントロールパネル]ー[システムとセキュリティ]ー[システム] を表示します。左側タスクより[システムの詳細設定]を選択し、確認画面が表示されるので[続行]を選択します。[システムのプロパティ]ウィンドウが表示されますので、[詳細設定]タブを選択し、[環境変数(N)...]ボタンを押して設定画面を表示します。



② 環境変数設定

ユーザ環境変数はそのユーザでログオンした場合に有効で、システム環境変数はユーザに関わらず、システム全体に適用されます。JAVA_HOME は利用形式にあわせてどちらかに設定してください。そのユーザしか使用しないのであれば、ユーザ環境変数で構いません。

[新規(W)]を選択し、環境変数 JAVA_HOME を追加してください。設定する値はご使用になる JRE (または JDK)が導入されているフォルダです。例えば、JRE6u5(JRE1.6.0_05)を標準でインストールした場合には、“C:\Program Files\Java\jre1.6.0_05”が設定値となります。変数名及び変数値をキーボード入力後、「OK」ボタンをクリックして環境変数の設定が完了します。次項へお進みください。



6. MZ Platformのライセンス

MZ Platformの使用にはライセンスの取得が必要です。はじめてMZ Platformを導入される場合は、6.1の手順によりライセンスを申請してください。旧バージョンを既にお使いの場合は、6.2の旧バージョンからの取込を行ってください。ただし、ライセンス申請ファイル生成後30日間は暫定ライセンスにて実行可能です。また、アプリケーションローダーはライセンスがなくても実行可能です。

※ライセンスの発行は、配付キット(インストールCD等)に同封されている、「申込書兼利用数申請書」・「プログラム使用同意書」をご返送いただき、当研究会にて確認がとれた後となります。(「申込書兼利用数申請書」・「プログラム使用同意書」は両面印刷されています)

また、「申込書兼利用数申請書」・「プログラム使用同意書」は下記URLからもダウンロードできます。

http://mono.muse.aist.go.jp/mzpf/pdf/douisho_shinseisho.pdf

6.1. ライセンス申請手順

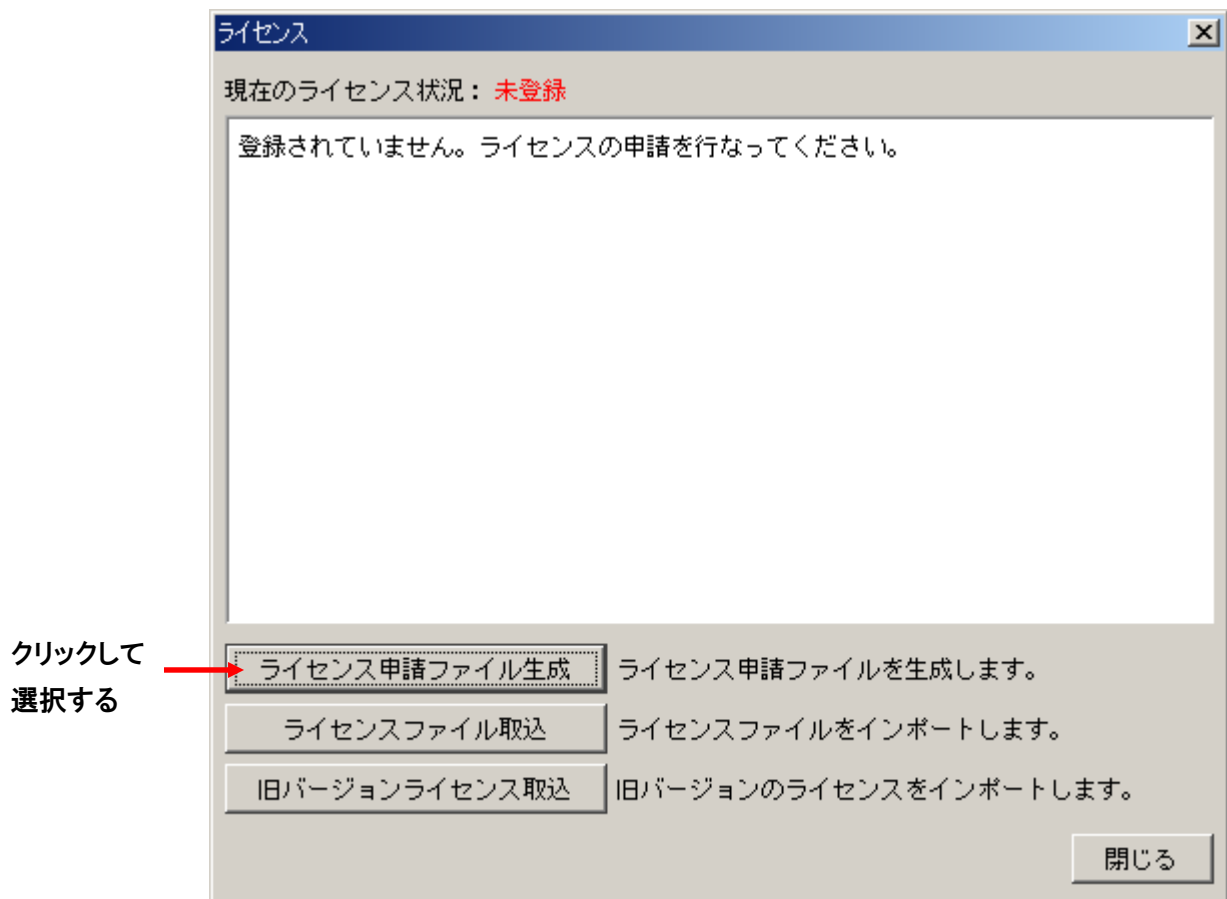
■手順1:アプリケーションビルダーの起動

MZ Platformのアプリケーションビルダーを起動します。アプリケーションビルダーはスタートメニューから次のように起動できます。(詳細はアプリケーションビルダー操作説明書を参照のこと)

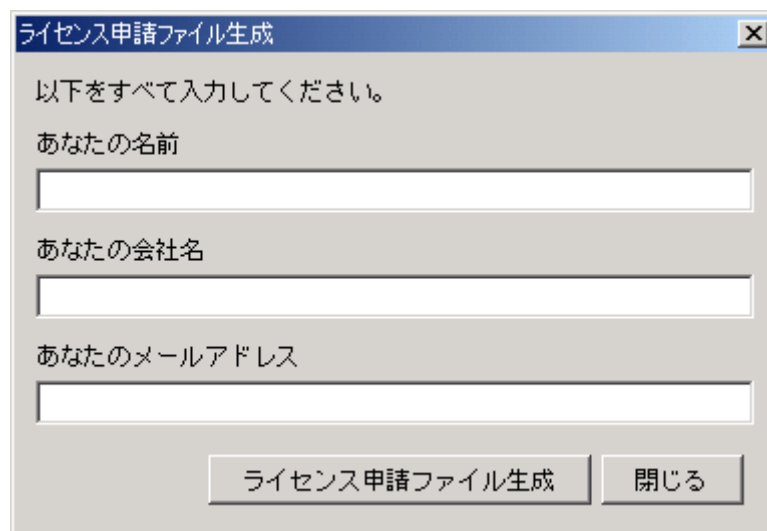
[スタートメニュー]ー[プログラム]または[すべてのプログラム]ー[MZ Platform 2.7]
ー[アプリケーションビルダー]

MZ Platformが起動すると下のライセンス管理画面が表示されます。これはライセンス未登録の状態です。

[ライセンス申請ファイル生成]ボタンを押し、申請ファイル生成画面を表示します。



■手順2:ライセンス申請ファイルの生成

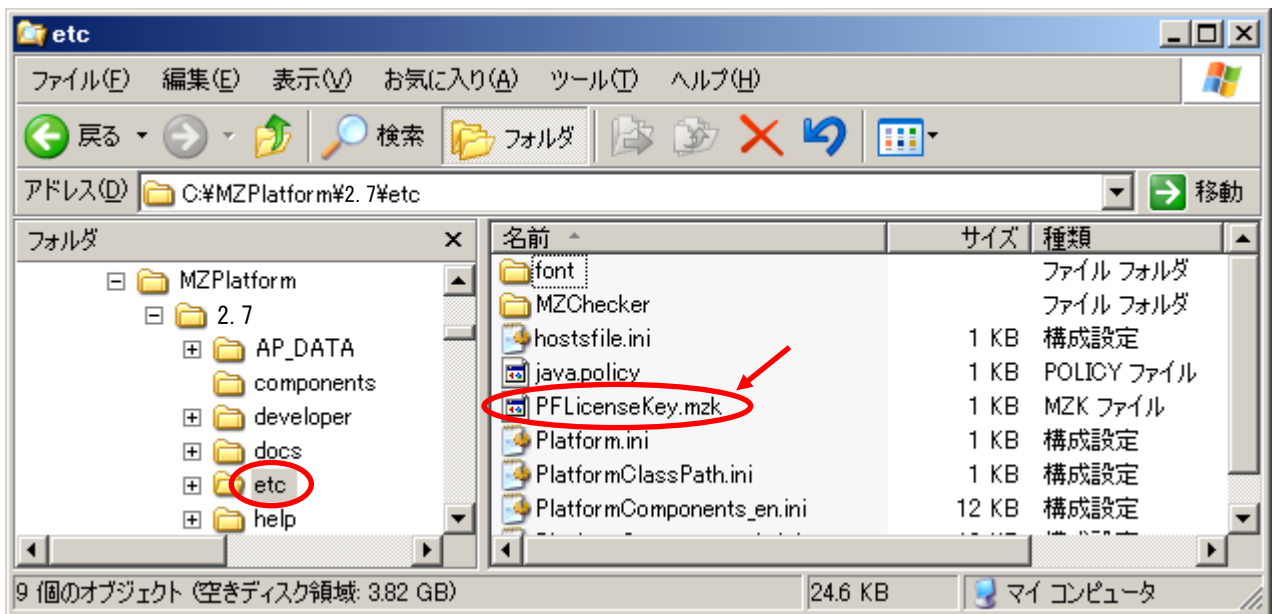


ライセンス申請に必要な情報を入力し、画面下にある[ライセンス申請ファイル生成]ボタンを押してください。以下の確認メッセージが表示され、ライセンス申請ファイルが以下のフォルダに生成されます。「了解」ボタンを押してライセンス申請ファイルの生成が完了します。

(MZ Platformインストール先フォルダ)¥2.7¥etc¥PFLicenseKey.mzk



標準インストールの場合には、下図の様にCドライブの中の「MZPlatform」フォルダ→「2.7」フォルダ→「etc」フォルダ内に「PFLicenseKey.mzk」というファイル名でライセンス申請ファイルが生成されます(ライセンス申請ファイル生成後 30 日間は暫定ライセンスにて実行可能です)。



■手順3:ライセンス申請

電子メールにてライセンス申請ファイル「PFLicenseKey.mzk」を添付し、以下の送信先メールアドレス宛に送信してください。メール本文には何も入力していただくことなく構いません。後日、ライセンスファイルを電子メールにて添付し返送致します。

件名 : (お申し込み時にご登録いただいた電子メールアドレスをお書きください)
 送信先 : mzlicense@m.aist.go.jp
 添付 : ライセンス申請ファイル

※複数のライセンスを申請する場合について

MZ プラットフォームは1枚のCDで組織内の複数のPCにインストールでき、利用者数に制限はありませんが、ライセンスは、MZプラットフォームをご利用になるPC一台ごとに、生成し申請して頂くようになっております。他のPCに、新たにMZプラットフォームをインストールする場合は、その都度各PCにおいてライセンスの生成及び申請を行なってください。

ライセンス申請は一度に複数のライセンスをまとめて申請することができますが、その場合はライセンス申請ファイル名が重ならないようにしてください。各PC毎にメールアドレスが指定できない場合などには、会員あるいは担当者が一括してライセンス申請を行うことができます。この場合担当者は、各PCにおいてライセンス申請ファイルを生成して、適当なディレクトリにPFLicenseKey.mzkの複製(コピー)を作成し、そのファイル名(基本名)を、PFLicenseKeyPC001.mzkなどのように、各PCと対応するように変更し、変更されたファイルを取りまとめて mzlicense@m.aist.go.jp 宛に送付してください。ただし、元のC:\MZPlatform\2.7\etc\PFLicenseKey.mzkのファイル名は絶対に変更しないでください。

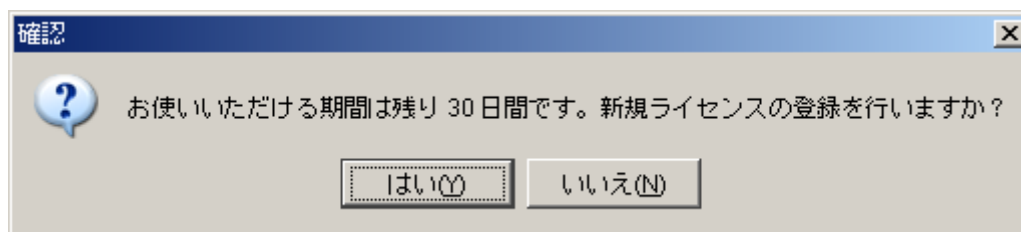
複数のライセンス申請ファイルを、件名(Subject)を申請書にある登録メールアドレス、本文は空として、電子メールに添付しご送付ください。変更された基本名を持つ、ライセンスファイル(例えば、PFLicenseKeyPC001_mzl)を電子メールの添付ファイルで返送しますので、担当者は、各PCにコピーしてください。このとき、ライセンスファイルの名前を変更する必要はありません。

尚、電子メールに添付しての送付等が困難な場合には、pf-support@m.aist.go.jp 宛にご相談ください。

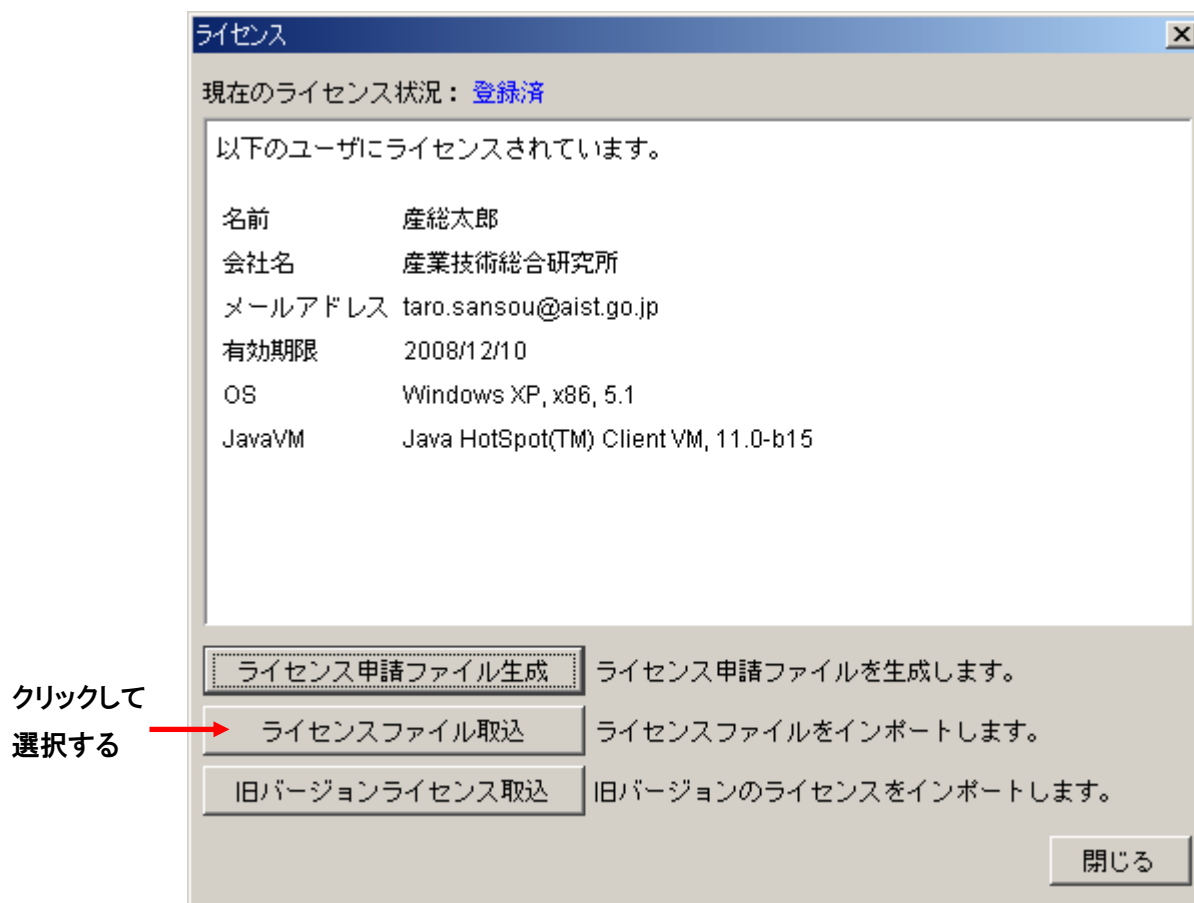
■手順4:ライセンス登録

電子メールにてライセンスファイルをお受け取りになりましたら、そのファイルを導入する PC のどこかに保管し、再度 MZ Platform のアプリケーションビルダーを起動してください。

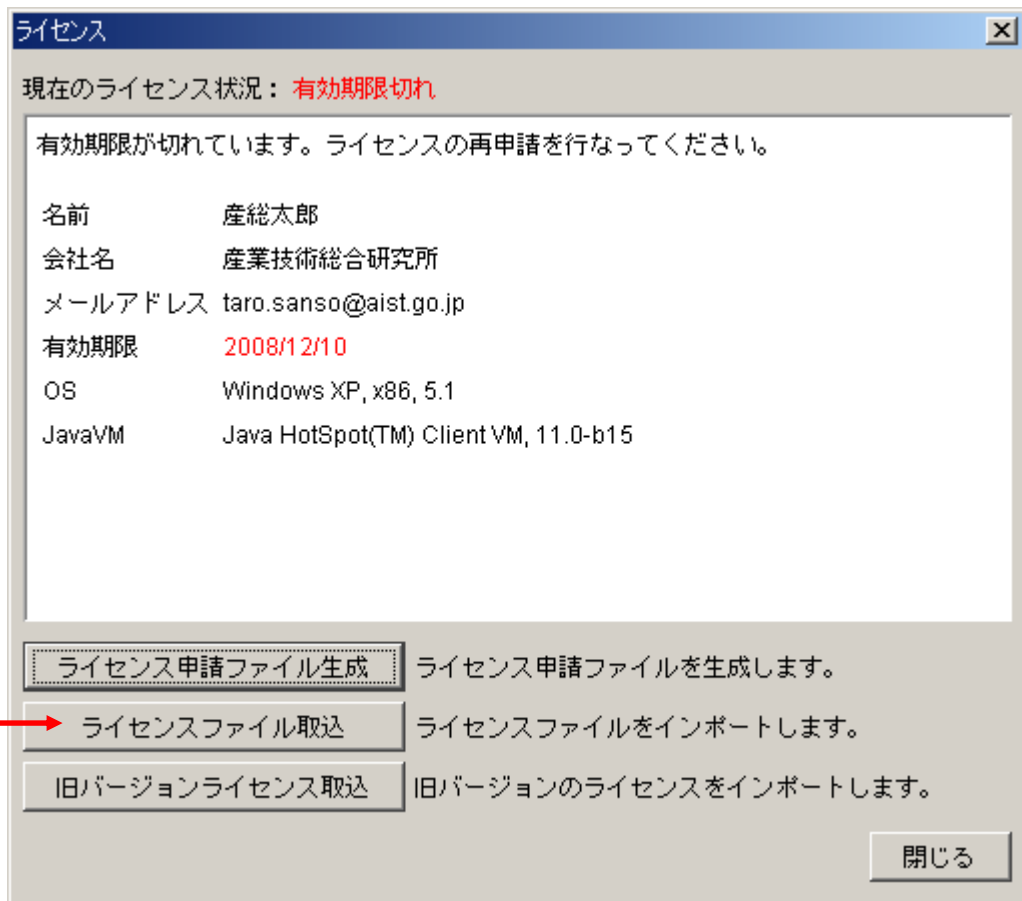
暫定ライセンス有効期限内の場合には、以下の画面が表示されます。



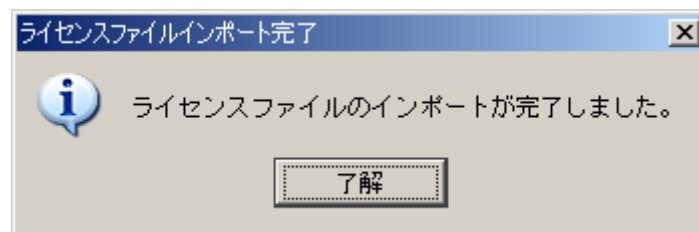
[はい]ボタンを押し次に進みます。以下の画面が表示されます。



暫定ライセンスが有効期限切れ場合には、以下の画面が表示されます。



[ライセンスファイル取込]ボタンを押し、受け取ったライセンスファイルを指定します。正しいライセンスファイルが取り込めた場合、以下のメッセージが表示されます。「了解」ボタンを押してライセンスのインポートが完了します。次回以降のアプリケーションビルダ一起動時には、ライセンスについての確認は表示されなくなります。以上にてインストール作業はすべて終了になります。



6.2. 旧バージョンのライセンス取り込み

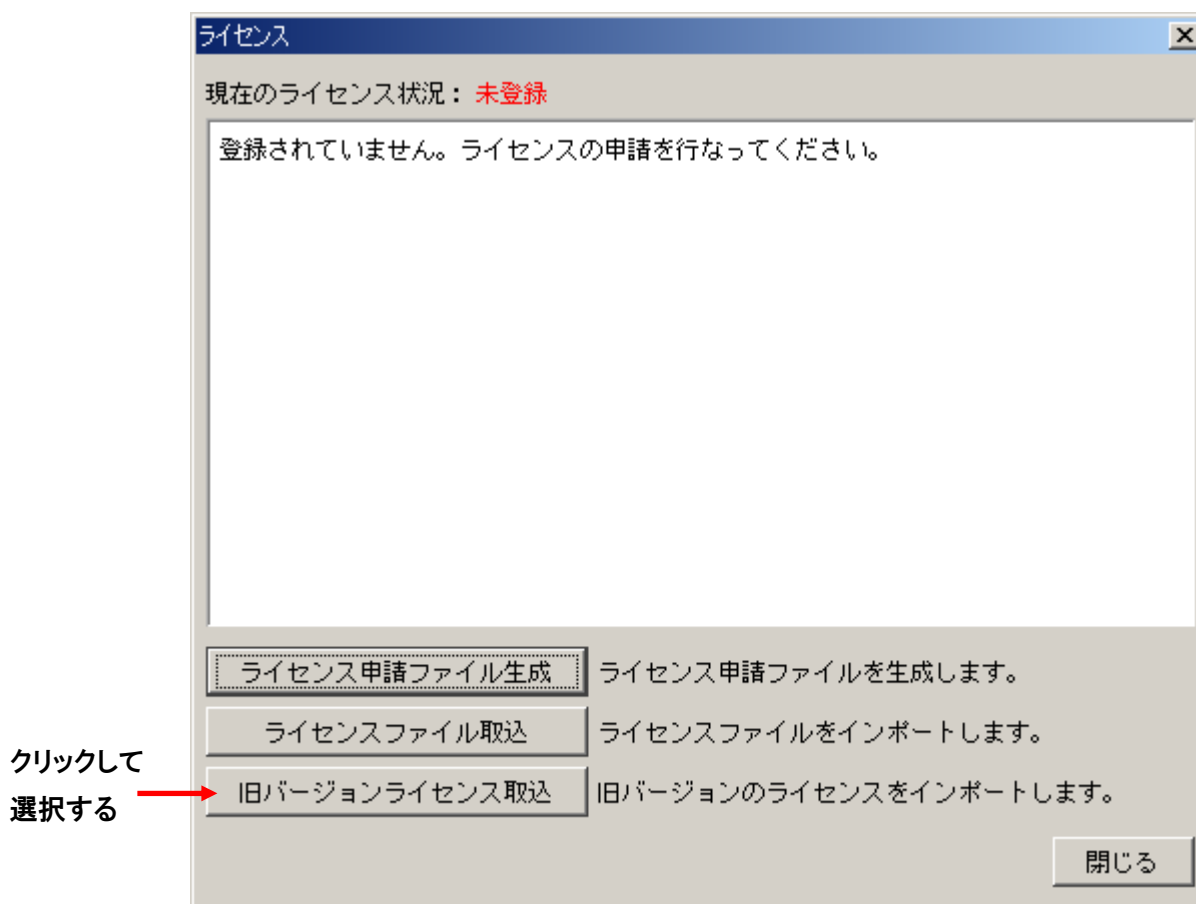
旧バージョンをすでにお使いの場合、再度ライセンス申請を行う必要はありませんので、以下の手順に従ってライセンスの取り込みを行ってください。

■手順1: MZ Platform の起動

MZ Platform のビルダーを起動します。MZ Platform のビルダーはスタートメニューから次のように起動できます。(詳細はアプリケーションビルダー操作説明書を参照のこと)

[スタートメニュー]—[プログラム]または[すべてのプログラム]—[MZ Platform 2.7]
—[アプリケーションビルダー]

MZ Platform が起動すると下のライセンス管理画面が表示されます。これはライセンス未登録の状態です。
[旧バージョンライセンス取込]ボタンを押します。

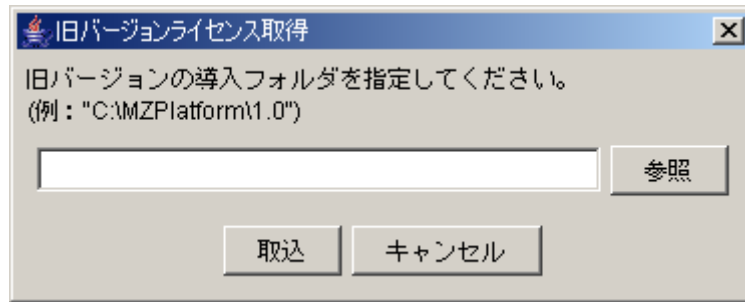


■手順2: 旧バージョン導入フォルダの指定

下の画面から旧バージョンの導入先フォルダを指定します。フォルダ名はキーボードから入力するか、[参照]ボタンを押して階層から選択します。

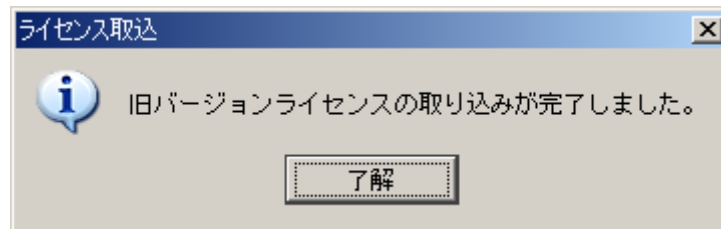
(Ver2.6 のデフォルト導入先は“C:\MZPlatform¥2.6”、その他のバージョンもデフォルトは“C:\MZPlatform¥(バージョン番号)”)

(※「etc」フォルダは含みませんのでご注意ください。)



■手順3:ライセンス取り込みの指示

[取込]ボタンを押し、指定したフォルダからライセンス情報を取り込みます。このとき確認のためにライセンス情報(名前/会社名/メールアドレス/有効期限)が表示されますので、内容を確認します。正しいライセンスが取り込めた場合、以下のメッセージが表示されます。「了解」ボタンを押してライセンスのインポートが完了します。次回以降のアプリケーションビルダ一起動時には、ライセンスについての確認は表示されなくなります。



6.3. ライセンス管理についての注意点

1) ライセンス関連ファイルへの操作

生成されたライセンス申請ファイルや、取り込んだライセンスファイルに対して、次の操作を行わないように注意してください。

- ・ファイルを削除する
- ・etc フォルダ以外のフォルダにファイルを移動する
- ・ファイル名を変更する
- ・ファイルの内容を編集する

2) ライセンスとネットワーク接続

ライセンス申請ファイルの作成には、ネットワーク接続が有効になっている必要があります(実際に接続している必要はありません)。常時接続しているデスクトップ PC では問題が起きにくいですが、ノート PC でネットワーク接続の有効/無効を切り替えて使用される場合は注意が必要です。有線/無線など複数のネットワーク接続方法がある PC では、ライセンス申請時と MZ Platform 使用時の状態を同一にしてください。

6.4. ライセンス関連のトラブル対応について

Q. ライセンス申請ファイルの作成に失敗する

A. 以下のいずれかが考えられます。

- ・ネットワークボードが取り付けられていない
 - MZ Platform を動作させるには、ネットワークボードが装着されている必要があります。
- ・(MZ Platformインストール先フォルダ)¥2.7¥etc¥PFLicenseKey.mzk というファイルがすでに存在する
 - 該当ファイルを削除してください

Q. ライセンスファイルを取り込めない

A. 以下のいずれかが考えられます。

- ・ライセンスファイルが壊れている
 - お問い合わせください。
- ・ライセンス申請ファイルが削除・移動・名称変更されている
 - 移動した場合は、元にあったフォルダに戻してください。
 - 削除した場合は、再びライセンスを申請してください。
 - ファイル名を変更した場合は、元のファイル名に戻してください。
- ・ライセンスファイルが別のライセンス申請ファイルに対するものである
 - ライセンス申請ファイルで申請して送られてきたライセンスファイルをご利用ください。
 - 他のユーザや PC で申請したライセンスは使用できません。
- ・ライセンス申請ファイルが壊れている
 - ライセンスを申請し直してください。

Q. 不正使用と表示される

A. 以下のいずれかが考えられます。

- ・ライセンス申請ファイルが壊れている
 - ライセンスを申請し直してください。

- ・ライセンスファイルが壊れている
 - お問い合わせください。
- ・ライセンス申請ファイルを生成したパソコンとは別のパソコンで実行している
 - ライセンス申請ファイルを生成したパソコン上でのみ実行してください。
別のパソコンで実行したい場合は、ライセンス申請をし直してください。
- ・ネットワークボードを交換した
 - ライセンス申請をし直してください。

Q. 有効期限切れと表示される

A. ライセンスを申請し直してください。

7. MZ Platformの実行

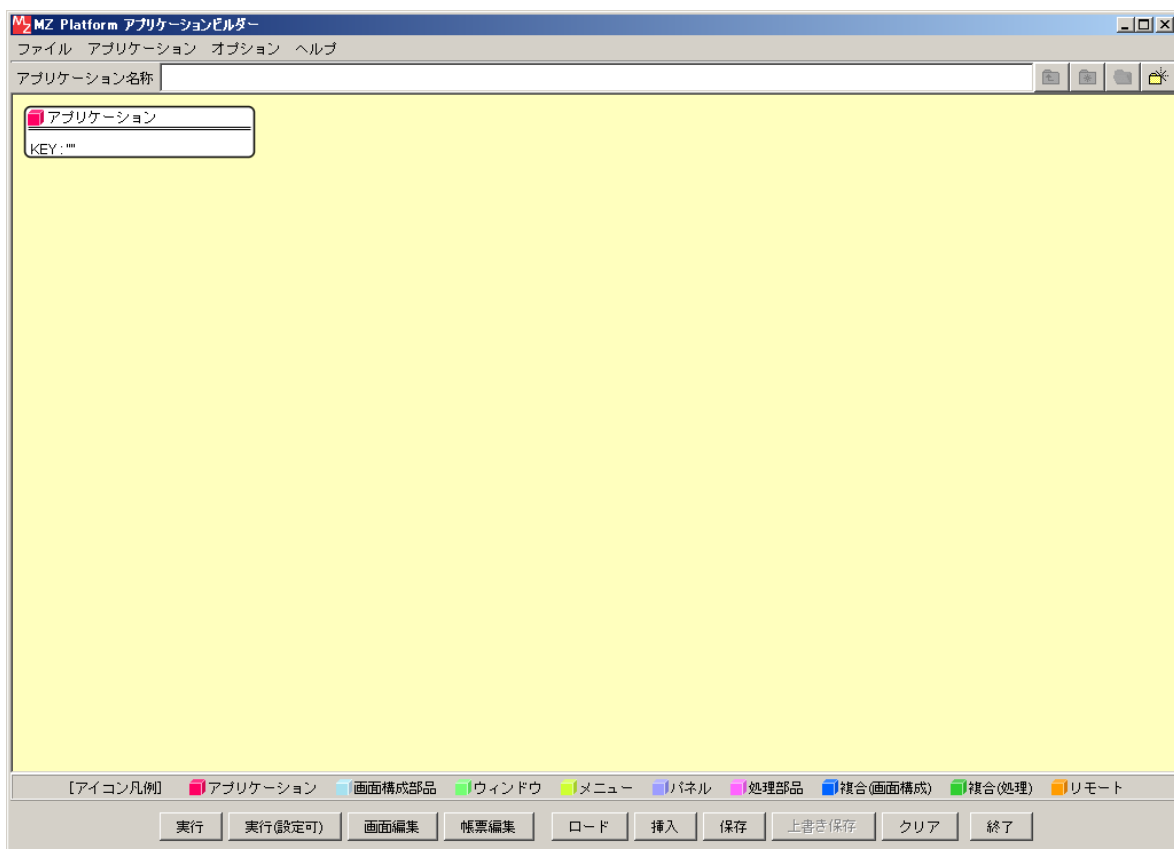
MZ Platform は以下の 2 つの機能を提供します。それぞれの機能についてツールが提供されており、以下のようにして起動します。

1)アプリケーションの構築

MZ Platform では、アプリケーションの構築はアプリケーションビルダー上で行います。スタートメニューから“アプリケーションビルダー”を起動してください。（詳細はアプリケーションビルダー操作説明書を参照のこと）

[スタートメニュー]－[プログラム]または[すべてのプログラム]－[MZ Platform 2.7]
－[アプリケーションビルダー]

また、“アプリケーションビルダー(コンソール)”では、起動時にコンソール画面が表示されますので、実行中のメッセージ出力などを確認することができます。また、構築したアプリケーションは、そのままアプリケーションビルダー上で実行することができます。



2)アプリケーションの実行

MZ Platform では、アプリケーションの実行はアプリケーションローダーから行います。スタートメニューから“アプリケーションローダー”を起動してください。（詳細はアプリケーションビルダー操作説明書を参照のこと）

[スタートメニュー]－[プログラム] または[すべてのプログラム]－[MZ Platform 2.7]
－[アプリケーションローダー]

また、“アプリケーションローダー(コンソール)”では、起動時にコンソール画面が表示されますので、実行中のメッセージ出力などを確認することができます。

8. MZ Checkerについて

MZ Platform 上で構築されたアプリケーションとして、MZ Checker がインストールされます。MZ Checker は、「JAMA/JAPIA PDQ ガイドライン」に従い、CAD データの品質をチェックするツールです。MZ Checker の実行には、スタートメニューから“MZ Checker”を起動してください。

[スタートメニュー]—[プログラム] または [すべてのプログラム]—[MZ Platform 2.7]—[MZ Checker]

MZ Checker の機能や操作方法については、MZ Checker のマニュアルをご覧ください。また、MZ Checker の対象データサンプルとして、いくつかの CAD データを準備してありますのでご利用ください。

(MZ Platformインストール先フォルダ)¥2.7¥AP_DATA¥MZChecker¥CAD_DATA

■MZ Checker 画面イメージ

